

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20161

研究課題名（和文）取引仲介研究の新展開：仲介技術の革新や効率性向上が生む副作用についての研究

研究課題名（英文）New Developments in Intermediation Theory: on side effects caused by innovation and efficiency improvements of intermediation technology

研究代表者

渡辺 誠 (Watanabe, Makoto)

京都大学・経済研究所・教授

研究者番号：40899811

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間内に実施した研究及びその成果の概要についてプロジェクトごとにまとめると、まずプロジェクト1.「取引仲介の不安定性と仲介モード」では、仲介モードの選択という視点から市場構造が内生的に形成されるメカニズム、また、取引経済において取引の不安定性が鶴荒れる条件、特に、評判メカニズムが仲介スキルを代替するメカニズムや評判メカニズムと崩壊との関係、そして取引不安定性の起こる頻度や規模を解明した。プロジェクト2.「情報過多やサーチ中毒を誘発する仲介市場」では、プラットフォームにおいて過剰なサーチが発生するメカニズムやその効率性、また、サーチ市場における販売制約と価格メカニズムの関係について分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

取引仲介の理論として、レモンの市場における評判や市場の不安定性、また、サーチ市場を効率化する副産物としての情報過多やサーチ中毒を明示的に考慮したモデルは、既存研究では今のところ開発されておらず、本研究は学術的意義を有している。現実には、取引仲介という経済行為には必ずしも好意的に受け取られない帰結が伴う。さらに、これら諸問題は取引仲介の技術革新によって深刻化するケースも多い。このような問題意識からモノやサービスの仲介についての経済分析を行うことで、なぜこうした現象が起こるのか、それは政策介入が必要なものなのか、もし必要だとしたらどのような政策がベストであろうかを考えている点で社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：To summarize the research achievements during the funding period, on Project 1: "Instability of intermediated and intermediation mode," I developed theoretical models that enable us to analyze: the endogenous formation of market structure from the perspective of the selection of intermediation modes; the conditions under which instability occurs, in particular the mechanism by which reputation substitutes for intermediary skills; the relationship between the emergence and collapse of reputation mechanisms in a platform, and the frequency and scale of such instabilities. On Project 2: "Information overload and the intermediated market that induces search addiction," I analyzed the mechanisms by which excessive search occurs on platforms, its efficiency property, and the relationship between sales constraints and price mechanisms in intermediated search markets.

研究分野：応用経済理論

キーワード：取引仲介の経済学 プラットフォーム ミドルマン 評判 電子取引 市場の透明性 サーチモデル
レモンの市場

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまでの取引仲介研究においては、市場の担い手である仲介人（商人、小売業者一般やプラットフォーム、ディーラーや不動産業者など）について、主に、効率性の観点から、サーチフリクションを和らげる役割が注目されてきた (Rubinstein and Wolinsky, 1987, “Middlemen,” *Quarterly Journal of Economics*)。現実の仲介市場においても、近年の情報通信技術の向上によって登場したオンライン・プラットフォームによって、市場取引の効率性が大きく引き上げられた。しかしながら、仲介取引の技術向上にもかかわらず、取引仲介という現実の経済行為は期待された帰結をもたらさないばかりか「必ずしも好まれざる副作用」を生み出し社会問題化している。例えば、オンライン・プラットフォームはスキルのないアマチュア仲介を可能にしたが、それと同時に過剰広告や情報過多により、サーチ中毒ともよべるほどショッピングに時間をかけすぎと感じる消費者も増えている。こうした現実に対し、既往研究では十分な理論的説明ができておらず、また、市場の安定性の確保やサーチ中毒の防止など消費者の安全を確保するための政策介入に向けた議論も十分になされていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、仲介技術の効率性向上がもたらす“必ずしも好まれざる副作用”について経済モデルを構築して理論的に分析し、市場の安定性や消費行動の健全性を確保するために仲介市場に求められる条件を検討することである。これらの目的に沿うように、これまでの仲介取引研究では見逃されてきたいくつかの重要な視点を考慮する。まず、最近のオンラインショップでみられる仲介スキルを代替する評判のメカニズムである。本来、仲介に必要な財の質の判別は専門家のスキルとされてきた。なぜスキルを必要としない仲介が可能なのか、その経済的メカニズムを解明したい。二つ目は、仲介モードの変革である。仲介モードは、在庫を抱えて自ら売り買いするミドルマン（商人）・モード、そして、手数料を取って売手と買手に取引の場を提供するプラットフォーム（マーケットメーカー）・モードに大別できる。概して、多くの産業で IT 技術革新とともに後者のモードの比重が増してきている。このような仲介モードの変革が市場の不安定性に影響を与える経路を分析する。三つ目は、販売制約という、売り手が顧客に対して行う販売促進が制限されている状況である。最近のコロナ渦でのソーシャル・ディスタンス規制はまさに販売制約を生んでいる。販売制約という新しい視点を導入すると、情報過多やサーチ中毒の発生を統一的に説明できることを示す。

取引仲介の理論として、情報の非対称性の大きい市場の不安定性、また、サーチ市場を効率化する副産物としての情報過多やサーチ中毒を明示的に考慮した理論モデルは、既存研究では今のところ開発されておらず、本研究はこの未開拓の分野への第一歩となる。

3. 研究の方法

本研究では、応用経済理論の立場から異なる市場で横断的に成り立つ普遍的な原理を探る一方、それぞれに固有の論点を丁寧にくみ取っていく。そのため、理論の頑健性と現実への応用可能性の緊張関係を重視する。

上述の二つの問いに答えるべく、それぞれの問いごとにプロジェクトを立てて、それぞれのプロジェクトごとにオリジナルな経済理論モデルの構築を目指す。

- プロジェクト1. 取引仲介の不安定性と仲介モード：仲介人の評判で支えられている市場は、一度信頼が損なわれると瞬く間に崩壊する傾向がある。評判メカニズムによる仲介市場の生成・消滅の原理を明らかにし、仲介モードの変革によって市場の不安定性が増す理論的可能性を示す。
- プロジェクト2. 情報過多やサーチ中毒を誘発する仲介市場：教科書的なロジックに従うと、市場の透明性は規制してでも確保すべきで、消費者のスムーズな比較購買は市場の働きを支える良い要因だとされている。サーチフリクションの下で情報過多やサーチ中毒が発生する原理を明らかにし、その政策的ケアを考える。

具体的な道筋として、まずそれぞれのプロジェクトにおいて、基本的な理論モデルのセットアップとベースとなる分析の枠組みをつくる。より具体的には、プロジェクト1では、評判メカニズムが判別スキルを代替するロジックを明らかにすることで、評判を立てやすいが壊れやすい経済（新興プラットフォームなど）や、その逆に、立てにくいけれど壊れにくい経済（伝統的商人など）の発生条件を導出する。プロジェクト2では、仲介技術の革新で生まれたより透明度の高い、販売制約の緩くサーチコストの低い市場では、低価格で質の高い財やサービスを求めて、過剰にサーチするよう誘導されていることを示す。その次の段階として、モデルをさらに拡張して、政策分析を行う。消費者保護の観点からみて、仲介ビジネスへの望ましい参入規制や、産業の趨勢的な変化を加味した安定化政策、産業規制について新しい視点を提供することを目指す。データ解析などを行わない予定であるが、モデルによりタイトなエヴィデンスを模索する。

4. 研究成果

おおむね順調に目標を達成できたと評価できる。研究の成果をプロジェクトごとにまとめると、まず、プロジェクト1. 「取引仲介の不安定性と仲介モード」では、仲介経済における取引の不安定性についての研究成果の一部をAwaya, Iwasaki and Watanabe (2022) *Theoretical Economics*として、また、仲介モードの選択についての研究成果の一部をGautier, Hu and Watanabe (2023) *RAND Journal*として公刊した。評判メカニズムが仲介スキルを代替するメカニズムについては、基本的な理論モデルのセットアップとベースとなる分析の枠組みを構築し、取引仲介の不安定性が起こる頻度とその規模を分析した。プロジェクト2. 「情報過多やサーチ中毒を誘発する仲介市場」では、プラットフォームにおける過剰なサーチについての研究の一部をTeh, Wang, and Watanabe (2024) *Journal of Economic Theory*として公刊した。サーチ市場における販売制約と価格メカニズムの関係についての研究は、これまでの研究成果をMorage and Watanabe (2023) *CESifo Working Paper*としてまとめた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Awaya Yu, Iwasaki Kohei, Watanabe Makoto	4. 巻 17
2. 論文標題 Rational bubbles and middlemen	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Theoretical Economics	6. 最初と最後の頁 1559 ~ 1587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3982/TE4975	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Gautier Pieter, Hu Bo, Watanabe Makoto	4. 巻 54
2. 論文標題 Marketmaking Middlemen	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The RAND Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 83 ~ 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1756-2171.12431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Teh Christopher, Wang Chengsi, Watanabe Makoto	4. 巻 216
2. 論文標題 Strategic limitation of market accessibility: Search platform design and welfare	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 105798 ~ 105798
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jet.2024.105798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Jose Luis Moraga Gonzalez, Makoto Watanabe	4. 巻 10584
2. 論文標題 Price Equilibrium with Selling Constraints	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 CESifo Working Paper	6. 最初と最後の頁 1 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Intermediation and Reputation
3. 学会等名 SWET2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Directed Search on a Platform: Meet Fewer to Match More?
3. 学会等名 Singapore Management University Microeconomic Seminar (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Directed Search on a Platform: Meet Fewer to Match More?
3. 学会等名 Contract theory workshop
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Strategic limitation of market accessibility: search platform design and welfare
3. 学会等名 応用マイクロワークショップ
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------